

年間第 28 主日

第一朗読 列王記下 5・14-17

第二朗読 二テモテ 2・8-13

福音朗読 ルカ 17・11-19

2025.10.12 9:30 ミサ

カトリック高円寺教会

主任司祭 高木健次神父

聖書によれば、わたしたちと神様との関係、信仰生活は、神の言葉に従うということから始まって、そして喜びのうちに感謝するということで完成する。そういう道をたどっているということができると思います。

今、10月はロザリオの月で、一所懸命ロザリオを祈ることが勧められていますけれども、ロザリオを祈りながらマリア様の生涯をたどる、その最初の「喜びの神秘」の第1の神秘は、神のお告げ。マリア様のところに天使がやって来て、「救い主の母となります」っていうお告げがあるっていう場面です。で、その「救い主の母となる」っていうお告げに対して、マリア様が「わたしは主のはしためです。お言葉どおりになりますように」と、その言葉を受け入れる（ルカ 1・38）。それが第1の場面。

で、第2の場面が、今度はマリア様が親類のエリザベトを訪問したときに、マリア様がやって来たということでエリザベトとそしてお腹の中にいる洗礼者ヨハネ ————
のち
後の預言者のヨハネ ———— が喜んだというその出来事を受けて、マリア様自身が、自分に、そして自分を通して人類に、与えられる神様の恵みに喜びの声をあげて、感謝の言葉をずっと述べていくって ———— ルカの福音書ですけど ———— そういう場面ですね。いわゆるマグニフィカット、マリアの賛歌と言われます（ルカ 1・47-55）。

マリア様が第1の場面では神様のお告げを受け入れる。そして第2の場面ではその神様のお告げを通して実現することを喜んで感謝するっていう、実はそれは切り離すことができません。教会のミサの聖書朗読では違う日に読まれることが多いですけども、でも聖書としては繋がってるし、ワンセット。神の言葉を受け入れて、そして感謝に繋がっている。

今日の福音でも、10人の重い病にかかっている人たちがイエス様の言葉に従って、癒されたっていうことから始まります。「祭司たちのところに行って、体を見せなさ

い」(ルカ 7・14) っていう言葉は、本来は癒された人が祭司たちのところに行くわけですけども、イエス様はその前に「行きなさい」。で、その言葉に従って行こうとしたら、途中で癒されたっていう —— 「祭司たちのところに行って、体を見せなさい」とイエス様がおっしゃって、「イエス様、わたしたちはまだ癒されてませんけども。癒されたら行きます」って、そういうことではない。その言葉に従ったっていうことが強調されていますね。

でも最終的に感謝のためにイエス様のとこに戻って来たのは1人だったっていうこの福音の出来事は、神の御言葉に従うということから感謝に至るという道のりがいかに難しいか、その途中で分かんなくなっちゃうっていうか、感謝を忘れてしまうということがいかに多いかをわたしたちに思い出させているような気がいたします。わたしたちは、「感謝するっていうなら、まずその感謝のための根拠というか材料を、自分たちにとっての嬉しいことをください」ってつい思ってしまう。けれども多くの場合はもうすでに与えられている。なのに、与えられているものには、当たり前という風に思ってしまうって、感謝を忘れているということが多いんじゃないかなという感じがします。あるいはまた、思い出せば色々あるけど、その出来事についてはもうすでに感謝したから —— 何度でも感謝していいはずなんですけども —— 1つの出来事には感謝は1回だけっていうような思い込みもあるかもしれませんね。

わたしたちは、色々な機会に恵みを思い起こし感謝をするということを通して、本当は信仰の完成に向けて招かれているということができると思うんです。だから、色々な形を思い起こし、意識して、感謝するということそのものが、信仰の行いであると言いうことができるし、そのための力をイエス様ご自身からいただくし、感謝するっていうことが、実は、イエス様に近づいていくわたしたちの心の一番強い動機になっていくのではないかというのが、今日の感謝するために戻って来た人が一番イエス様の近くにやって来ているということを通して示されているような気がします。

わたしたちが、ミサのために集まっているのも、感謝の祭儀っていう言い方をします。神様が人類に与えられた全ての恵みに、人類を代表して —— 多くの人はそれを忘れるけれども —— でも代表して感謝を捧げる。それがここに集まっている動機であって、一人ひとりの願いを持ち寄るっていう願いの祭儀じゃない。感謝の祭儀なん

です、本当はね。わたしたち自身が、それぞれの歩みの中で、イエス様ご自身から感謝する心をいただき、そしてその感謝する心をいただくことを通して、さらにイエス様に近づいていくことができますように、その恵みを互いに願ひ合いたいと思います。

今日、新たにわたしたちのカトリック教会の新しい仲間が加えられる、そのことも大きな感謝に違いないわけなんです。自分には関係ないからっていう思いで集まるならば、このミサは成立しないんです。わたしたちは一人ひとりの個人的な信心のために集まっているのではなくて、共同で、人類を代表しまた教会を代表し、互いに互いの存在に感謝し、神様が集めてくださったことの中に恵みを見い出す。そのためにミサを通して力をいただき、またミサを通して感謝を捧げる。その思いを新たにして、今日新たに仲間が加えられるということに本当に心からの感謝を持って、このごミサをお捧げしたいと思います。

それでは、今日、転会と堅信式をお受けになる方、どうぞ前に出て来てください。

ミサ説教はカトリック高円寺教会ホームページの「ミサ説教」のページにも掲載されています。

PC <http://www.koenji-catholic.jp/cgi-bin/wiki/wiki.cgi>

携帯 <http://www.koenji-catholic.jp/mobile/>